

第 29 回群馬県救急医療懇談会 プログラム

【第 1 会場 (基礎大講堂)】

8:50～9:00 開会式

開会の辞 当番世話人

大嶋 清宏 (群馬大学大学院医学系研究科 救急医学)

9:00～9:40 一般演題 1【災害医療】

座長: 澤田 悠輔 (群馬大学大学院医学系研究科 救急医学)

1-1 「災害訓練による内視鏡センター看護師の意識の変化」

伊勢崎市民病院 清村 典正

1-2 地域二次医療機関を救護所として運用し、医療機関選定及び傷病者搬送に功を奏した集団災害の1例

渋川広域消防本部 佐俣 巧

1-3 熱中症多数傷病者事案における災害対応の経験

国立病院機構渋川医療センター 高橋 栄治

1-4 当院における災害対応への取り組み

国立病院機構渋川医療センター 高橋 栄治

1-5 院内で限定的に発生する災害への対処 ～新生児メトヘモグロビン血症集団発生からの考察～

群馬大学医学部附属病院 石毛 崇

9:50～11:20 シンポジウム 1

座長: 城田 智之 (前橋赤十字病院 高度救命救急センター 救急外来)

「救急看護認定看護師が考えるコミュニケーション」

S1-1 多職種とのコミュニケーション ～認定看護師の立場から～

SUBARU健康保険組合 太田記念病院 救命救急センター 藤井 香織

S1-2 プレホスピタルにおける多職種連携～円滑な活動に繋げるコミュニケーション～

前橋赤十字病院 高度救命救急センター 入澤 愛

S1-3 救急医療こそコミュニケーション ～救急科新設から4年目を迎えて～

原町赤十字病院 星野 哲也

S1-4 当院救命救急センター外来におけるリーダー看護師育成への関わり

群馬大学医学部附属病院 救命救急センター 城田 麻記

11:30～12:20 教育講演

座長：荒巻 裕斗（群馬大学医学部附属病院 救命救急センター）

「傷病者情報のなにを、どのように伝える？
～現場救急隊に捧げるプレゼンテーションのすすめ～」

前橋赤十字病院 高度救命救急センター 小橋 大輔

13:00～14:00 特別講演

座長：大嶋 清宏（群馬大学大学院医学系研究科 救急医学）

「救急外来におけるコミュニケーションの特徴とコツ」

東京ベイ・浦安市川医療センター 救急集中治療科 救急外来部門 部長 船越 拓

14:10～15:20 シンポジウム2

座長：曾田 雅之（前橋赤十字病院 産婦人科）

「病院前周産期救急の果たす役割とその課題」

S2-1 妊婦（39週）が自家用車内で分娩した症例

吾妻広域消防本部 齊藤 昌一

S2-2 分娩施設のない吾妻地域における病院前周産期医療の取り組み

西吾妻福祉病院 神田 里美

S2-3 群馬県版病院前周産期救急コースの策定と有用性の検討

群馬大学医学部附属病院 田中 亜由子

S2-4 群馬県の人口動態統計から推測した救急隊関係者が対応を要する施設外出生数の推移

群馬県立小児医療センター 丸山 憲一

S2-5 群馬県の周産期医療体制とその問題点

群馬大学医学部附属病院 周産母子センター 日下田 大輔

15:30～16:10 一般演題2【G7群馬高崎デジタル・技術大臣会合】

座長：澤田 悠輔（群馬大学大学院医学系研究科 救急医学）

- | | | | |
|-----|---|------------------|-------|
| 2-1 | G7群馬高崎デジタル・技術大臣会合における救護体制 | 前橋赤十字病院 | 中村 光伸 |
| 2-2 | G7群馬高崎デジタル・技術大臣会合における会場直近にある救命救急センターの役割 | 国立病院機構高崎総合医療センター | 町田 浩志 |
| 2-3 | G7群馬高崎デジタル・技術大臣会合における救護所での活動 | 群馬大学医学部附属病院 | 澤田 悠輔 |
| 2-4 | G7群馬高崎デジタル・技術大臣会合 消防特別警戒について | 高崎市等広域消防局 | 藤巻 勇 |
| 2-5 | G7群馬高崎デジタル・技術大臣会合における救護所設置に係る県としての対応 | 群馬県健康福祉部医務課 | 木滑 大介 |

16:20～17:20 一般演題3【MC・病院体制】

座長：大嶋 清宏（群馬大学大学院医学系研究科 救急医学）

- | | | | |
|-----|--|--------------------|-------|
| 3-1 | 「救急業務のあり方に関する検討会」～救急業務におけるメディカルコントロール体制のあり方検討会に参加して～ | 高崎市等広域消防局 | 甘田 明広 |
| 3-2 | 群馬県MC協議会の活動強化による脳卒中救急医療体制整備の取り組み | 老年病研究所附属病院 | 谷崎 義生 |
| 3-3 | 救急医が少ない救命救急センターにおける救急応需率向上への取り組み | 国立病院機構高崎総合医療センター | 町田 浩志 |
| 3-4 | 救急車受け入れ困難における状況及び理由「看護師の人力不足」の判断とその検証 | 前橋赤十字病院 高度救命救急センター | 滝沢 悟 |
| 3-5 | 全次型救急外来に救急搬送される患者への看護師と医師が必要と知覚する看護実践
— 看護師と医師の協働による医療提供に向け | 前橋赤十字病院 高度救命救急センター | 関山 裕一 |
| 3-6 | 急性冠症候群と急性期心原性脳梗塞における救急外来から再灌流までの時間調査と時間短縮に向けた課題の検討 | 公立藤岡総合病院 | 石原 久美 |
| 3-7 | 前橋赤十字病院ECMO Transportの現状 | 前橋赤十字病院 高度救命救急センター | 藤塚 健次 |
| 3-8 | 「医療機関ネットワーク事業」を通じた消費生活上の事故への取り組み | 前橋赤十字病院 高度救命救急センター | 水野 雄太 |

17:20 閉会式

閉会の辞 当番世話人

大嶋 清宏（群馬大学大学院医学系研究科 救急医学）

【第2会場（基礎中講堂）】

9:00～9:40 一般演題4【症例（医師①）】

座長：荒巻 裕斗（群馬大学医学部附属病院 救命救急センター）

- | | | |
|---|----------------------|--------|
| 4-1 心室細動に至った若年完全房室ブロックの一例 | 公立藤岡総合病院 | 新井 萌々花 |
| 4-2 救急車内での遠隔モニタリング操作が有用であったICM植え込み患者の1例 | 前橋赤十字病院 | 峯岸 美智子 |
| 4-3 早期手術が有効であった大動脈・大静脈損傷の一例 | 前橋赤十字病院 高度救命救急センター | 井田 俊太郎 |
| 4-4 腸管脱出を来した腹部刺創の一例 | 群馬大学医学部附属病院 救命救急センター | 青山 大貴 |
| 4-5 全身痛を主訴に来院した脊髄硬膜外膿瘍の一例 | 群馬大学医学部附属病院 救命救急センター | 二瓶 拓史 |

9:50～10:30 一般演題5【症例（医師②）】

座長：福島 一憲（群馬大学医学部附属病院 救命救急センター）

- | | | |
|--|----------------------|-------|
| 5-1 気管切開に伴う気管肉芽のリスクマネジメント | 前橋赤十字病院 高度救命救急センター | 萩尾 文香 |
| 5-2 外耳道炎から敗血症に至りDICを併発した一例 | 群馬大学医学部附属病院 救命救急センター | 山田 知義 |
| 5-3 カフェイン中毒による難治性心室細動に対し、集中治療により救命に至った一例 | 群馬大学医学部附属病院 救命救急センター | 横山 勇希 |
| 5-4 メトホルミン過量内服後の乳酸アシドーシスに対して緊急透析を施行し著効した一例 | SUBARU健康保険組合 太田記念病院 | 吉岡 暁 |
| 5-5 単純CTにて診断しmt-PAと胸骨圧迫にて心停止から救命しえた急性肺血栓塞栓症の一例 | 国立病院機構高崎総合医療センター | 村田 智行 |

10:40～11:20 一般演題6【COVID-19】

座長：一色 雄太（群馬大学医学部附属病院 救命救急センター）

- | | | | |
|-----|---------------------------------|----------------------|-------|
| 6-1 | 群馬県における新型コロナウイルス感染症に対する対応 | 前橋赤十字病院 高度救命救急センター | 中村 光伸 |
| 6-2 | 群馬県のsurge capacity拡大とCOVID-19対応 | 前橋赤十字病院 高度救命救急センター | 藤塚 健次 |
| 6-3 | DMAT隊員として参加したC-MAT活動報告 | 群馬大学医学部附属病院 救命救急センター | 石坂 好巳 |
| 6-4 | CMAT活動報告～DMAT看護師の立場で～ | SUBARU健康保険組合 太田記念病院 | 森田 英之 |
| 6-5 | コロナ禍は渋川医療センターへの救急搬送にどんな影響を与えたか | 国立病院機構渋川医療センター | 山岸 敏治 |

11:30～12:20 一般演題7【看護ケア】

座長：鈴木 琢真（群馬大学医学部附属病院 救命救急センター）
服部 莉菜（群馬大学医学部附属病院 北病棟2階）

- | | | | |
|-----|---|---------------------|--------|
| 7-1 | 交通外傷によるボディーイメージ変容がある患者の看護 —ロイの適応モデルを用いて行動・言動変容を考察する— | 群馬大学医学部附属病院 | 門倉 佑希子 |
| 7-2 | 重症呼吸不全患者が在宅酸素療法を導入し早期退院に至った一例
～HCUにおける肺癌終末期患者の意思を尊重した退院支援～ | SUBARU健康保険組合 太田記念病院 | 和田 麻由 |
| 7-3 | 小児の命を臓器移植に繋げられた症例 | 公立館林厚生病院 | 吉澤 晶子 |
| 7-4 | 生後4か月の乳児心肺停止患者を経験して ～二次保健医療圏における小児救急患者受け入れ病院として～ | 利根中央病院 | 鷹嘴 朱美 |
| 7-5 | 当院集中治療室における緩和ケアプロジェクトの取り組みについて | 前橋赤十字病院 | 田村 百架 |
| 7-6 | 補助循環用ポンプカテーテル装着患者を受け持つ看護師の現状と教育体制の課題 | SUBARU健康保険組合 太田記念病院 | 原田 裕作 |

12:30～12:50 評議員会

13:00～14:00 一般演題8【教育・研修・救急活動】

座長：福島 一憲（群馬大学医学部附属病院 救命救急センター）

- | | | | |
|-----|---|------------|--------|
| 8-1 | 群馬県におけるPEMEC（内因性と外傷ではない外因性の教育）コースの開催における現状と課題 | 前橋赤十字病院 | 川田 広明 |
| 8-2 | 林業現場における応急対策訓練の実施について | 前橋市消防局 | 福田 貴紀 |
| 8-3 | 脳卒中院内発症に対する出前勉強会の開催 | 老年病研究所附属病院 | 吉田 哲 |
| 8-4 | 小学校と連携した熱中症多数傷病者対応訓練を実施して | 多野藤岡広域消防本部 | 新井 貴史 |
| 8-5 | ブロック組み立て方式による病院連絡机上訓練 | 高崎市等広域消防局 | 加部 将人 |
| 8-6 | 「3機種の自動心マッサージ器を用いた救急活動における比較」 | 館林地区消防組合 | 渡部 佑樹 |
| 8-7 | 機器を併用した心肺蘇生におけるCCFの検証結果について | 利根沼田広域消防本部 | 原沢 しづき |

14:10～15:00 一般演題9【救急システム・通信指令】

座長：一色 雄太（群馬大学医学部附属病院 救命救急センター）

- | | | | |
|-----|------------------------------------|--------------------|--------|
| 9-1 | 緊急通報システムD-Call Netからの通報による救急出動について | 前橋市消防局 | 山田 靖 |
| 9-2 | 12誘導心電図伝送の恒常的な体制づくりを目指して | 高崎市等広域消防局 | 鈴木 寛宗 |
| 9-3 | たかさき消防共同指令センターの現状と課題 | たかさき消防共同指令センター | 星 輝 |
| 9-4 | 119番通報緊急度判定の重要性 | たかさき消防共同指令センター | 白田 滉一郎 |
| 9-5 | 通信指令課員による口頭指導の状況と考察について | 伊勢崎市消防本部 | 剣持 雄基 |
| 9-6 | 蘇生を希望しない終末期患者の心停止に対する救急要請における問題点 | 前橋赤十字病院 高度救命救急センター | 金畑 圭太 |

15:20～16:10 一般演題10【症例（救急救命士①）】

座長：森 瑞樹（国立病院機構高崎総合医療センター 救急科）

- | | | | |
|------|--|------------|-------|
| 10-1 | 急性腎不全における高カリウム血症によるダブルカウント心電図の1例 | 前橋市消防局 | 松本 湧豊 |
| 10-2 | アナフィラキシー反応及び心電図上でST上昇を認めた症例 | 館林地区消防組合 | 中川 卓哉 |
| 10-3 | 12誘導心電図を用いた救急隊と医師の連携について | 利根沼田広域消防本部 | 富岡 伶斗 |
| 10-4 | 12誘導心電図伝送機器を活用し、二次病院、ドクターヘリと連携した事案について | 利根沼田広域消防本部 | 阿部 裕允 |
| 10-5 | CPA傷病者に自動心臓マッサージ器を使用した症例 | 吾妻広域消防本部 | 宮崎 美昌 |
| 10-6 | ターケットを使用した「出血コントロール」が功を奏した事例 | 太田市消防本部 | 石村 貴男 |

16:20～17:00 一般演題11【症例（救急救命士②）】

座長：河野 慧（群馬大学医学部附属病院 救命救急センター）

- | | | | |
|------|---|------------|-------|
| 11-1 | 豪雪地域にてエアストレッチャー [®] を搬出に使用した事案について | 利根沼田広域消防本部 | 本多 勇志 |
| 11-2 | 救急隊先行の山岳救助症例 ～心肺停止傷病者へ防災航空隊とのアプローチ・特異事案を経験して～ | 高崎市等広域消防局 | 武田 景太 |
| 11-3 | ドクターヘリ医師が蘇生困難と判断したことにより救出に至った救助事案 | 富岡甘楽広域消防本部 | 織田 大光 |
| 11-4 | 産婦人科救急における消防、医療の連携について | 利根沼田広域消防本部 | 原田 侑介 |
| 11-5 | 現着時に墜落分娩していた症例を経験して | 館林地区消防組合 | 武藤 和麻 |